

第19回「雷」俳句・川柳コンテスト

受賞作品集

●主催：雷文化都市構築推進委員会・鶴岡市

阿部 月山子 先生 選 【俳句の部】

【大賞】

(敬称略)

稲光 闇に著る 金閣寺

福岡県 早川 忠之

講評

この瞬間に立ち会う事の出来た方は幸運な方である。
この場面に遭遇し、五七五に過不足無く名句に仕上げている。
闇の中に浮かぶ一瞬の情景が目には浮かび焼き付いて離れない。稲光の照らす最高の光景である。

【秀作】

冬の雷 沖を見詰める 漁師妻

東京都 石川 昇

講評

冬の海は恵を与えてくれる。鮪、寒鱈、鮫鯨、平目他にも多くの魚が私達の食卓を楽しませてくれる。

それだけに事故が多いのも、今の気節で遭難する船もある。荒れを兆す冬の雷に漁師の妻は船の早い帰港を願うのである。

遠雷や 島に赴任の カウセラー

新潟県 春野 ぷりん

講評

新しく島にカウンセラーとして赴任したのを遠雷が迎えてくれた。
荒々しく迎えてくれたのではなく、宜しくと言っているようである。
島の人々と仲良く頑張れよと言っているようでもある。幸あれと。

阿部月山子先生選 【俳句の部】

【佳作】

(敬称略)

- ① 出羽三山 生まれかわりの 旅の雷 大分県 吉田 紫紅
- ② 継ぐ人の なき荒畑や 雷雨降る 千葉県 小田中 準一
- ③ 純色(にびいろ)の 空を切り裂く 鯉起し 東京都 安田 功二

講評

① 出羽三山は月山を中心にして生まれかわりの山として古くから親しまれカ(ちから)を与えてきた。日本を通過する高気圧・低気圧や前線は、ヒマラヤで生まれ発達して日本に流れてくる。雷も生まれかわりの旅をするのである。

② 過疎や減反と言われてから久しくなる。崩解した地域もあり地方の農家も益々苦しくなって来ている。農家を継ぐ子供達も見切りをつけて去る人も多い。雷雨が荒田、荒畑に拍車をかけているようである。

③ 勤労感謝の日が過ぎる頃には時雨や雪が降り易くなってくる。小春の気節も終り空も雲に覆れ、鈍色の空の日が多くなる。鯉興しや雷起しに春まで耐える日々が続く。

雷文化都市構築推進委員会 選 【川柳一般の部】

【大賞】

(敬称略)

砲雷に 泣く吾子を抱く 母悲し

滋賀県 廣木 信子

講評

ウクライナ・パレスチナの両情勢については多くの句が寄せられ、皆さんの高い関心が伺えました。今回はいずれの地域についても、また他の戦火の地域にも共通する句を大賞としました。一刻も早く、平和な世の中が訪れることを願うばかりです。

【秀作】

①虎皮の パンツも今は 紙おむつ

広島県 黒飛 義竹

②誹謗やめ なくすネットの 地雷原

神奈川県 改発 利佳

講評

①何とも言えないもの悲しさを感じさせる一句。「雷親父」の「その後」の姿に、時の流れを感じます。雷親父が次世代へ受け継がれることなく「絶滅危惧種」になっていくのはさみしくもあります。これも時代の流れでしょうか。

②ネット社会を地雷原というメタファー（たとえ）で風刺した一句。ネット上での発言は指先一つで手軽にできるからこそ、言葉の重みを忘れないようにしたいものです。

【佳作】

(敬称略)

- ① 雷と 凧でお札の 100ドルに 愛媛県 きんごしろう
② これも古い 雷おこし 歯が立たず 埼玉県 深澤 健
③ 雷に 貸す耳持たぬ ゲームの子 千葉県 古い猫

講評

① 米国建国の父と呼ばれるベンジャミン・フランクリンは、凧を用いた実験によって雷が電気であることを明らかにしたことで知られています。現在アメリカの一〇〇ドル札に描かれていることも含め、五・七・五でよくまとめられていますね。

② 雷親父が雷おこしに歯が立たなくなってきたという、悲哀を感じさせると共に苦笑を呼ぶ一句。年々、こうした言葉を人ごとではないと感じるようになってきました。これも古いでしょうか。

③ 昔に比べて親御さんの「雷」が控えめになったのか、それとも現代の子どもたちには「雷」が響かなくなっているのか。はたまた、それほど現代のデジタルゲームは子供を没入させてしまうということでしょうか。子どもや親子関係の変化といった、時代性がよく表現された一句です。

雷文化都市構築推進委員会 選 【川柳一般の部】

今回の川柳一般部門への投稿作品は非常に粒ぞろいで、選考にとっても悩みました。そこで今回は特別に、惜しくも受賞を逃した作品を、選外佳作として公開します。

【選外佳作】

(敬称略)

AIも 雷落ちて 失神す

高知県 野中 泰佑

講評

AIが落雷で動かなくなる様子を「失神する」と表現しているところが面白いですね。Chat GPTなどの生成AIの衝撃が多くの議論を呼んでいますが、そもそもクラウドのデータセンターやネットワークが雷にやられてしまえば、たちまち使えなくなってしまいます。技術発展が目覚ましいAIも、まだまだ雷には手を焼きそうです。

雷文化都市構築推進委員会 選 【川柳小中学生の部】

【大賞】

(敬称略)

にらみ合い 電光石火 跳ぶ竹刀

群馬県 吉井 咲喜

講評

剣道の勝負を雷で表現してみせたか、なるほど！と感心しました。試真剣勝負と、技を繰り出す一瞬の攻防の緊張感が伝わってきますね。

【秀作】

①指先で 感じる雷 静電気

埼玉県 沖田 典

②停電し なぜか不思議で わくわくだ

山形県 菅原 和希

講評

①指先の静電気を「雷」として感じるという感性が素晴らしい。今の季節、身近な生活の中に雷を見出した作品です。静電気と雷を重ねてみせたところに、理科の学習の効果が表れているようにも思えます。

②雷で停電が発生することは困ったことだと問題視することが多いのに対して、ここでは「わくわくだ」と表現されています。停電もめったにない社会になっっているので、停電が珍しいからワクワクするのか、あるいは突然の暗闇によからぬ悪戯を考えてワクワクするのか、どっちでしょう。いずれにせよ、時代を感じますね。

雷文化都市構築推進委員会 選 【川柳小中学生の部】

【佳作】

(敬称略)

①落雷だ 呪文を言うよ 授業中 山形県 齋藤 陽晴

②雷神が あいさつに来た 積乱雲 山形県 藤田 都希

講評

①テレビアニメ『呪術廻戦』や『葬送のフリーレン』などが大人気となる中、現代の子どもたちにとっては呪文や魔法がとても身近なものに感じられているのではないのでしょうか。昔なら雷といえば「くわばらくわばら」でしたが、今はなんと唱えるのでしょうかね。

②積乱雲が近づき、雷の「ゴロゴロ」という「ごあいさつ」が聞こえたら、天気急変に警戒が必要です。現代は雨雲も地震もスマホで確認できる便利な時代になりましたが、こうした自然からのサインも見逃さないようにしたいですね。